阿知須町広報

No.119　この広報紙は毎月1回各ご家庭にもれなく配布

昭和36年10月5日

山口県吉敷郡阿知須町
発行　阿知須町役場
印刷　宇部新聞印刷所

今月の納税
町県民税　3期分
国保保険税　5期分
年金保険料　10月分

赤字解消額は九百九十七万三千円

町財政再建計画実施状況の公表について

地方財政再建促進特別措置法第19条の規定により、昭和35年度における町財政の再建計画の実施状況を別表のとおり公表します。

昭和36年9月30日　町長　中尾岩雄

昭和34年度末における赤字額一千九百五十七万七千円を昭和35年度において、百三万五千円の歳入増による歳出減により、赤字解消額は七百六十二万九千七百三十四万四千の合計額九百九十七万三千円を残し赤字額は精算35年度実質黒字を残した訳で精算35年度の自然増です。

2、地方譲与税の該当はありません。

3、地方交付税は普通交付税1千百49万4千円と特別交付税1千百94万6千円と前年度に引き続き交付されたことになります。

4、国・県支出金においては国庫支出金において42万4千円の減、県支出金において、56万3千円の増で差引13万9千円の歳入増となっています。

5、財産収入では土地売却代等の歳入増

6、分担金・負担金については江畑水路負担事業負担金

7、使用料・手数料については戸籍手数料などの増収

8、地方債については漁港局部改良事業に対する起債

9、寄附金・雑収入については29万の予金利子増収となっています

歳出の部

1、人件費においては事務繁雑化による臨時職員の採用などによる歳出増

2、物件費においては保育所関係物件費を扶助費として算入したもの60万、経費節減5万3千による歳出減

3、維持補修費においては計画補修を行なって経費5万7千円を節減

4、扶助費、補助費においては経費節減23万1千円、保育所物件費の算入により差引36万9千円の歳出増

5、計画事業を完了して経費節減23万3千円

別表　（昭和35年度町財政再建計画実施状況）
単位千円

歳入	計画額 A	決算実施額 B	差引増減 A－B
1. 税収入	30.910	31.371	▲461
2. 地方譲与税	—	—	—
3. 地方交付税	14.449	14.449	0
4. 国・県支出金	10.583	10.722	▲139
5. 財産収入	7.616	7.761	▲145
6. 分担金負担金	19	19	0
7. 使用料・手数料	1.734	1.724	10
8. 地方債	1.000	1.000	0
9. 寄付金雑収入	463	753	▲290
歳入計	66.774	67.799	▲1.025

歳出	計画額 A	決算実施額 B	差引増減 A－B
1. 人件費	14.348	14.422	▲74
2. 物件費	9.684	9.031	653
3. 維持補修費	1.017	960	57
4. 扶助費・補修費	2.947	3.316	▲369
5. 普通建設事業費	24.465	24.232	233
6. 災害復旧事業費	361	344	17
7. 公債費	4.853	4.721	132
8. 積立金	200	200	0
9. 出資金・貸付金	600	600	0
10. 繰出金	670	0	670
11. 前年度繰上充用金	27.189	27.189	0
歳出計	86.334	85.015	1.319
歳入歳出差引額	▲19.560	▲17.216	2.344

歳入における▲印は歳入増を、歳出における▲印は歳出増を示す

（概略説明）

1、歳入の部

税収入においては46万1千円申告もありませんが、これからの自然増です。

先きの計画の実現にも真摯な御協力を賜らんことをお願いいたします。

明るい社会は あなたの温い心で

〝赤い羽根〟共同募金始まる

昔スイスのある片田舎に住んでいた牧師さんは、その村を通る旅人がひどくあわれな姿をしていたが、その困っている旅人を助けてあげようと考えた村人はいなかった。そこでこの牧師さんは、あわれに思って、数日考えたその結果、カシの木に幾つかの穴を作り「与えよ、とれよ」と言う字を書いて人目につく村の木に吊し置いたところ、村の人達はその箱の中にお金を入れ、困った旅人はそのお金をもらって行ったと言う話！

このことから始まった赤い羽根共同募金運動が今年も10月1日からの温い愛情と善意により始められました。昨年もこの運動に皆さま方のお金は、災害生活保護事業や児童福祉施設或いは更生保護、災害難災者の保護等いろいろな事業に役立ったお金は、実に多大の成果をあげることが出来ました。今年もまた目標額が突破できるように皆さま方の御協力をお願いいたします。

公給領収書を受取りましょう

県では昭和36年10月1日から31日までの一ケ月間を「公給領収証交付受領月間」として家と土地（田、畑、宅地）について昭和36年8月から昭和38年12月ごろまでの間に、再評価を行なわなければならないことになりました。

今回、国の指示によって家と土地（田、畑、宅地）について昭和36年8月から昭和38年12月ごろまでの間に、再評価を行なわなければならないことになりました。

本町もこの期間内に再評価を行うわけですが、なにぶん町全般にわたる広い区域のことですから土地の所在や状況も判りにくく、また家の間取りの迄で測量しなくてはなりませんので、いろいろと迷惑をおかけすることと思います。

なお家屋調査については、あらかじめ訪問日数をお知らせすれば好都合とは思いますが一日平均十戸位しかできないことと雨などで計画どおり実施できない場合もありますので、これらの点について予じめおわびを申しあげます。ともに、御了承を得たくお願いいたします。また土地については無断立入をすることもありますので、これまたあらかじめおことわりとご了承をお願いいたします。

この調査および評価に当りましては、町民の皆さま方のご理解と格段のご協力がなければ、円満な進行ができませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

実施要領はだいたいつぎのとおりです。

土地・家屋を再評価 不均衡をなくします

一、評価の目的

旧賃貸価格制度を廃止して、地価評価方式とし、評価の不均衡を是正しようとするもので、決して税を上げるのが目的ではありません。しかし個々については多少の上下は生ずることがあると思われますので、ご了承ください。

二、評価および期間

イ、昭和36年10月頃より、昭和37年4月頃までに土地（田、畑、宅地）にあつては標準地の調査、設実を行い家屋あつては測量を行い、図面を作ります。

ロ、昭和37年10月ごろより昭和38年12月頃までに土地および家屋の評価を行います。

三、課税

昭和39年度より、再評価価額により、課税がなされることになつております。

敬老会へご寄附のお礼

このほど、つぎの方より敬老会のための、ご寄附を戴き有難うございました。早速敬老会事業資金にくり入れ、ご芳志に副いました。ここに広報紙上をかりて、報告をかね、厚くお申しあげます。

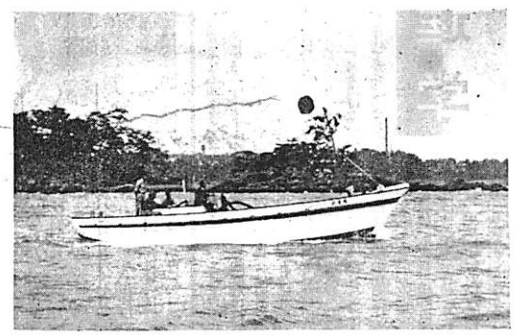
記

一金　一千円也

西条区　磯中正雄殿

公正丸が進水 近く衛生業務に就航

6月1日新造発註しておった町有の屎尿運搬船がこのほど完成し「公正丸」と命名され進水しました。公正丸は船長9、7メートル、幅2、35メートル、深さ1メートル総トン数4、43トンです。同船は町内のし尿掃除車約6トンを載し近ノ漁港から1万メートル沖の瀬戸内海の真中で海中投棄の業務に就航します。



進水した公正丸

住民登録は14日以内に

住民登録は、人の居住関係を登録する公証制度です。ひとくちにいえば、町の住民たる資格を有する者を「住民票」に登録して町役場に備えておき、人の住所を公に証明し、町民の利益をはかるためのものです。ともに町はもとより国その他の各種行政機関によって行なわれる事務の適正化をはかるための制度です。

区分	内容	届書	届出の期間	届出に必要なもの
町外から移転してきた時	転入	届	14日以内	①世帯主または其の代理人の印
町内で移転した時	転居	届	14日以内	②転入証明書（ない時は戸籍・住民票の謄抄本）
世帯主が変つた時	変更	届	14日以内	①世帯主または其の代理人の印 ②区長証明書
国外へ移住する時	国外移住届	移住することが決まつてから10日以内に発する必印		世帯主またはその代理人の印

小学校の運動場に犬を入れないように

シーズンとなれば敬老会・体育祭・飼犬を連れての散歩もよいレクリエーションです。然し乍らチョット注意して下さい。児童の遊び場の運動場に流れてゆくのはやめて下さい。危険は加わないようでも、モシ……という事があります。可愛い子供たちに怪我をさせる前に私たちがよく注意あって、今後は犬を運動場に入れないようにしましょう。

通信

町

9日　赤い羽根募金運動（10月中）
9日　百日咳、ジフテリヤ注射
10日　栄養教室
16日～17日　狂犬予防注射日
23日　百日咳、ジフテリヤ注射日
10月中旬　臨時町議会（予定）
10月中旬　農業委員会
10月下旬　体協役員会
11月上旬　町民体育祭
11月6、7日　種牛日

学校

阿中校
1日　運動会
10日　諸会費納入日
職業講話
12日　英単テスト
13日　貯金日
12日～14日　部科学展
17日　漢字書取テスト
19日　計算力テスト
20日　親睦遠足
28日　貯金日
25日　職員運動日
26日　全国中学校一せい学力調査
27日　県国語教育研究大会
28日　三校職員研修会
28日～31日中間テスト

阿小校
12日　運動会
14日　貯金日
14日～16日　体重測定
22日　参観日
28日　三校研修会

井小校
8日　運動会
10日　集会日
11日　校内科学発表会
11日　参観日
21日　貯金日
24日　吉佐教育事務所長学校訪問
28日　三校職員協議会

農協

9日　吉山蓄産共進会（於小郡）
中旬　有線放送開成式

からだも考えも変った

ちかごろの子どもを理解しよう

ちかごろの子供はいろいろな点で私共の子供時代とちがってきました。中学3年にもなると、ずいぶんほどなおかあさんより背が高くなり、高等学校の男生徒は5尺6寸は普通となり、女生徒も5尺3・4寸はめづらしくなくなりました。また某小学校6年女児の2分の1はすでに初潮をみたという報告もあります。こういう事も性的早熟児のケースの原因の1つと考えてよろしいようです。

次に心の持ちかたの問題ですがこれは非常にかわってきたようです。

まず私共大人たちの小学時代の先生のいうぜは「家へ帰ったらおとうさんやおかあさんの言う事をきき、学校では先生の言う事をきかねばなりません」という事でした。親と先生はもちろん、この世の中で、一番、子供の善事を願っているのですから、このおしえそれ自体にはまちがいはありませんが、親も先生も、もとより人間だからまちがいがある事もあるのでこれが行きすぎて絶対に言う事をきけ決して口答えをしてはならぬとなると大変な事になります。それに、そうなると子供たちは「これはおとうさんに叱られるからしない」「これは先生にほめられるからする」という事になるそれもいいと思いますが、それだけでは何でも他人にきめてらわねばできぬ、いわば自主性のない子になり易す私共はたいていそうして育ってきたものですから、どこかに封建的な卑屈さが身についているようです。

そこで、この頃の子供たちは親が何か言えば、それが気に喰わなかったり、勝におちなかったりすると、すぐ言い返す。生意気だと思ってそれを制止しようとすると反抗する。そういう事で「ちかごろの子供たち」がお気に召さぬ方もあるようです。

しかし子供が言い返えすのは反抗のための反抗でなく、自分も十分に意見を述べてみようという事なのですが、その際大人の方が生意気だと思って感情にかられると、子供の反抗の度は増しゆくようです。

しかし、いくら自主的にといっても、何しろまだ子供なのでしたがって知識も経験もとぼしいのですから、いう事にもする事にもまちがいが多いのは当然です。そこで大人が「転ばぬ先の杖」というわけで子供に教えると言い返えすが、この場合は大人の忠告が子供の知識や経験で理解できぬ場合もありましょうし、また理解はできても、その大人を尊敬していない場合、その他いろいろでしょうが、大人側としては第何よりも子供に信頼されねばどうにもならないと思います。

例えば「長い物には巻かれよ」とか「泣くと地頭には勝たれぬ」とかいうような封建的世渡りのちえを考えても身につけまた「寄らば大樹のかげ」と事大主義的な順応さ、道徳も「人並みに」とか「世間体」ということになりがちですが、こういう事が結局太平洋戦争のような民族の悲劇をつくってしまったのでした。

そこで戦後はこのような封建主義の教育のあやまりを変って子供は親や先生からいろいろな事を教わるが、親や教師から「やれ！」と命ぜられてするのではなく、自分自身の判断でこれは「よい事だからする」「悪い事だからしない」というような物の考え方をするようになりました。

さて、ちかごろの子供たちの中には、すぐ自殺をしたり、また妄りに考えもしないで、とんでもない事をするのがいるので、大人たちを戸まどいさせています。

この原因については、いろいろあると思いますが、とにかく外見の上からは考えると余り物を深く考えなくなったのは事実のようです。

しかしチョット待って下さい大人もだんだんそうなってきたようです。その原因はいろいろありましょうが、とにかく子供とゆったりとした気持で話し合う時間をつくる事が何より大切と思います。

末永くお達者で

今年も全国各地で敬老会行事が展開されましたが本町も阿知須、井関両小学校講堂に於て9月17日午前10時より本行事を開催しました。午前中は式及び満90才になられた方に記念品贈呈など、午後演芸会で楽しい一日を送ってもらいました。この日集まられたお年寄りは夫婦揃った30組を始めて410名人生の荒波を乗り越えたそれぞれの表情が印象的でした。人生僅か50年とは戦時中の合言葉でしたが現今の平和な世代では70年から80年に延びています。老人の日はかりでなく、いついつ迄もやさしくだいじにしてあげましょう。私たちの人生の基礎を築いて下さった人たちです。

今年米寿を迎えられた方は

宮田吉五郎さん（東区）
植谷　リキちゃん（西条区）
上野　ミツさん（岩西前区）
中野　ハツさん（浜表区）

短歌会詠草

〔長月〕

北　祝　原田　英子

一つづつものを覚えてゆく吾子よ
育児日記に消ゆ這ひと記す

北　祝　大野キヌエ

へりし靴の裏洗ひつつ思ふかな歩かねばならぬ君が職のこと

浜　正司ウメノ

故里は北の方に美保ケ岳今日は
霞みて淋しかりけり

旦　岡本　松枝

癒え傷いたわりながら終日を鍬
丘の畑の草焼く煙菅を包みしま
まに夕暮れむとす

浜　景枝　英雄

靴の下にくづれゆく砂静もりて昼
鳴き出づるとほろぎ一つ

旦　益弘　吾一

鶏つよき牛にて死を挽るとき咽ひ
続くる「タ、コ小やけ」

浜　石田きた子

街灯に吾が影淡く映りゐて残業に
おそきを吾を待つなり

北　祝　隅田美智子

編む機械止めし夜更けに聞え来る
吾子の寝息とこほろぎの声

西　条　原田　陽子

風呂をかりて帰る川面に十五夜の
月青ければゆつくり歩む

飛　石　財津　宗人

秋晴れの鳴門観潮あちこちに酒な
酌むあり歌ふ声あり

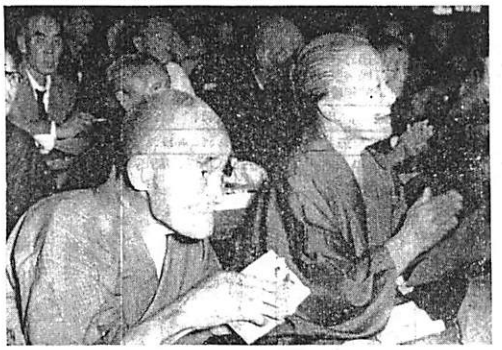
寺河内　郭重　咲ぬ

みづ口原揺らむと登る大土手に鈎
打ち込めば虫の声止む

◇九月二十三日、宇部市制四十周年記念「あらつち」短歌大会に於て本町の河崎さんの作品が互選一位に入選受賞された。

河崎　幾代

ふるさと棚に青き実掘るる亡き夫の
生ひ立ちし家にひと日居たりけり



長生きしてヨカツタナ

拍手は惜しげなく

日本人は昔から拍手をおくることがへたのようです。

心では感激していても、拍手などに表現するのを好まないようです。しかし、拍手は簡単で気品のある国共通の賞讃の表現です。

山口国体、東京オリンピックを待つ私たちは、もっと拍手を送ることに気をつけましょう。

かけある記

とても楽しかったヨ

お父さんもくればヨカツタノニ

シーズンとあつて各地で運動会が行われています。本町の保育園も砂合保育園は9月20日に、岩倉保育園は9月22日にそれぞれ盛大に行いました。次代をになう良い子たちは晩秋とも気一杯に競技をいたしました。

マケルナ、マケルナ　砂合保育園にて

高校進学

来春高校進学を目指す生徒の数は、本年にくらべるとその数が激増している。中学三年生の諸君は勿論のことだが父兄の方も大変心痛されている。私ども時折父兄の方の相談を受けることがある。

大体中学三年を終えて高校受けようと思うものは、自分で自分はどこの学校を受けたいと云うと位い決定する能力がなければいけない。その決定をなすに当つて中学の先生方が最も親味のある指導者であり、父兄が子供の相談役である筈である。ところが父兄が決定者である情況がないでもないようである。そんな自主性のない子供をつくっていけないと思うもし普通高校に入っていて、大学に行けなくなり、こんなに機械がすきだったのに工業高校に行けばよかったの等と、高校卒業頃になつて子供が悩む等は人生の悲劇の一つである。

元来高校と云うものには、どこの学校にもその学校の存立している意義と特色があり、又立派な伝統があるのである。どんなに同知須の町で評判の悪い学校でも、その学校の卒業生を調べてみると随分立派な、又成功した卒業生が出ているものであり、評判の高い所の学校の卒業生にもくだらない人も出ている筈である。東京大学、名門校の卒業生にもくだらない人も出たんで刑務所の厄介になつている人はないと云うことはあり得ないのである。逆に高校に行かなくても立派な人になる人もある訳である。

「お前そんな不勉強なことではいくら高校を選ばなければ仕方がない。その場合は進学する大学が東京か大阪とかに成る可能性が大きくなるので、文科の大学で月一万五千円の仕送りを計算しなくてはならぬ。こんなあたりは本人には充理解の出来ない点であるから細心の助言が必要である。高校卒後、公務員、銀行員等になるには普通高校が有利な点もある会社、工場に入りたいなら商業、工業、農業等の実業学校に入るべきである。ただしこの場合は例えば宇部商業あたりでは最早課長等と云う等理職にはつけないものと考えておくべきである。大学の工学部に入りたいから工業高校、経済学部に入りたいから商業高校と云う考えは間違っている。

（上野真琴）

阿知須町が連続優勝

バレーは3位

九月二十三日の連休日に本敬都町職員対抗の球技大会が本町で行われました。楽しられたお天気も快晴に華やかに熱戦が展開されましたが結局野球は本町チームが小郡町を4～2で破り優勝帆で秋穂町を6～1で降して連続優勝。また排球は大内町が優勝し本町勢は3位となりました。

本町役場野球部ナインは

総監督　飯田村尾重崎坂辺村村田
投　捕　一二三遊左中右
内野手　山田　藤　崎　水　中村田木
〃　〃　伊　礒　中　細　青
外野手　〃　〃　〃

県民手帳はいかがですか？

一九六一年版の県民手帳が出来ました。これは県勢や市町村勢の統計資料を記載したポケット日記です。定価は一冊80円、御入用の方は至急町役場総務課へお申込み下さい。

慶弔録

婚姻の部

夫　重村　三成　旦北
妻　小林　君代　東波波

出生の部

田中　豊作　二男　健二郎　引野
三浦　豊　長男　俊昭　東比須
大沢　稔　長男　淳　中村
末永　一雄　長女　砂子　飛石
長田　勝政　長男　和雄　小南
吉武　裕次　長女　裕美　築地
古谷　一成　長女　純子　浜表
藤井　亮巳　長女　宏子　門松

死亡の部

福次　ツル　八月卅一日　57　岩西前
田村　敬子　九月三日　40　浜
福永　四平　九月五日　81　岩西前
吉浜仲次郎　九月六日　71　小東
芥川　フヨ　九月六日　86　引野
西村ルミ　九月十七日　79　砂二
上野　亀巳　九月十九日　13　岩前
世渡　島一　九月廿一日　67　杖川
藤本五五郎　九月廿三日　78　南裏

雑記帳

○「つつけんどん」という言葉があるが、これが実に厄介な言葉だ。良い意味にとれば茶目気に感ずるが、悪い方に解釈するといやな感じがする。

○種々の行事がよくあるが、その場合、色々な物を手出ずる、公共物があるけれども、その応待振りのマチマチなこと…非常に気持よく快く応待する人もあり、〝姦また苦やかった〟と思い乍ら応待する人もある。

○何々を借して戴けません？と云ったら、ハイよろしうございます。…とわざわざ持つて来て借してくれる人もあるかと思うとアソコにありますよ…と云つて〝取りにゆけ〟と言わぬばかりの素振りを見せる人。これが応待する人が教師となると高里感さがひどい。

いやな感じと流行した言葉があるが、案外原因はこんなところにあるかも知れない。

○人の悪口は言わないがよい。自分も言われる身になるから……コンナことは、誰でも知っていて、実行できないことが多いのに驚く。

○無用な〝ほじくり立て〟をして挑戦する人もあるかと思うと、おおらかで無頓着な人もいる。「和」ということが如何に大切であるか、一人々々静かに考えてみたい。

○人間の心はその奥底において一つにつながっている。

○人間にとつて「心構え」程大切なものはない。

○人間が「何か為を得たい」と真剣にのぞんでいる時には求めるものは必ず得られる。

○日々の業務にいそがしい時にこそ「そのままの心」を大切にしなければならない。

○吾々はなくまでも「初心」を忘れず「幼な児の心」を忘れず「無構えの構」に徹しなければならない。

…と何かの本で見たことがある